近づく——

三池闘争記念行事

関西不知火会が計画

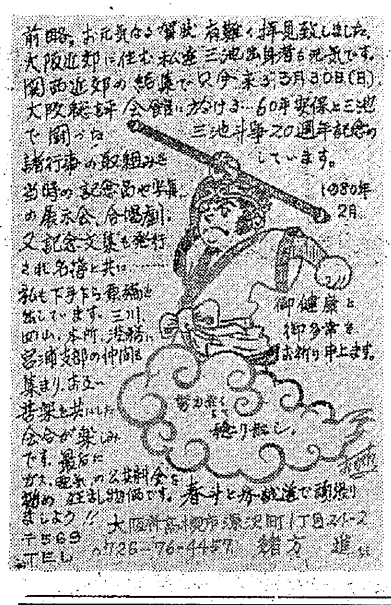
今年は、三池闘争後二十年という記念すべき年にあたる。三池闘争を経験した代表は山根房光さん（大阪府交労働者、野市私部二〇七〇—六—二〇四）。成功を心から祈ろう。いまを新たにするだろう。

このとき関西不知火会（三池炭鉱退職者の組織）は、全会員力を集めて〝三池闘争二十年記念行事〟を催おす計画。今準備を進めている。

計画によれば、大阪市北区天神橋三—九—二七のPLP会館で。種目は①三池闘争記念品（はちまき、腕章、写真、ホッパーパイプ、帽子など）展示、②記録映画〝三池の闘い〟上映、③立食パーティなど。有志で、合唱詩劇もだすとか。

なお、記念行事実行委員会の代表は山根房光さん（大阪府交労働者、野市私部二〇七〇—六—二〇四）。成功を心から祈ろう。

（左は会員の緒方進さんからの、変わった案内状）



夜は宴会。歌に踊りがひっきりなしで、楽しい一夜だった。

小浜温泉旅行

きびしい日々忘れ、楽しんだ二日間

退職者の会　大久保　陽三

三池炭鉱退職者の会の、文化活動の統一行事の一つとして、三月一日と二日の一泊旅行を行なった。場所は、長崎県下の小浜温泉。六十八名が参加した。

前夜から降り続いていた雨も、私等の旅行を喜んでくれるかのようにやみ、ほっとひと安心。

ところが、利用するバスの手違いで、午前十時の出発が二時間近くも遅れ、一時はどうなることかと心配したが、そこは三池労組OBの幹事の説明でみなは了解。ことなく乗車でき、第一の休憩所の祐徳稲荷をめざして直行。

ガイドもこの日は、男性の運転手さんの肩替りとか。しかし一行を楽しませなくては……と、カラオケで唄う姿が、また変わった楽しさだった。

小浜温泉の観光ホテルは、橘湾を眼下に見おろす九階建て。大変見晴らしがよく、石油を積んだ、例の十万トン級の石油貯蔵タンカーが数隻、海上にズラリ並んでいた。浴場から見る落日もひとしおきれいで、心ゆくまでみんなも楽しんだ。

夜は、おきまりの宴会。うまい料理にもまして、会の玉名支部の千原氏、三池の永野氏、四山から飛び入りの退職者夫婦のおどりなどが出、唄とおどりで夜の更けくのを忘れたほどの盛会だった。

福祉後退、厚生年金支給年齢引き上げ等、世の動きは私等高齢者に大変きびしい毎日だが、そんなうわさを忘れて過ごした二日間。意義深いものがあったと思う。ただの慰安会というだけでなく、それはよい交流や意志疎通の場となり、団結を再確認する契機となり、退職者の会もいよいよこうして育っていくことを思った。

最後になったが、こんどの旅行の企画から実施まで、終始協力して下さった松岡大喜さんに心からお礼申し上げる。

併せて三池労組政治局員の皆さんのご協力にも感謝申し上げる。

（筆者は退職者の会の文化部長）

労災法改悪の問題点

三川指導部　小川紘志

手記

山口伊佐雄さん（46歳。払採炭工）は三川鉱坑底一西50卸の下段払で仕事中、カッターにまきこまれ、人間の体のあとをとどめぬほど、無惨な遺体となって仲間のなかに帰ってきた。昭和48年6月7日のことで、写真は仲間の肩にかつがれ坑底からあがってくる山口さんの遺体。あらゆる産業で、労働災害は絶えぬ。

直ちに行動起こそう

「裁判すると、年金を打切るゾ」のおどし

何が二重払いというか　労災かくしの強化へ

自民党政府は現在の通常国会において、労災保険制度と民事損害賠償責任の〝調整〟という名での労災・職業病の企業責任を回避する、労災法の根本的改悪を成立させようとしています。

この法改悪の動きと問題点について、三月七日、総評本部の信太忠三氏を招き、福岡県評で学習会が開かれました。三池からは織田計が一千万円になるまで、年金の支給が停止されます。これでは実質上、裁判の意味がなくなるわけで、きわめて露骨な、訴訟権の封殺以外ではありません。

年金を打ち切るぞ

もし法改悪が実現すると、たとえ裁判によって一千万円の判決を勝ちとったとしても、労災年金の低限度の補償を、しかも大幅に制限して支給しているにすぎないものです。

これを、法律上も受給権利の範囲と、賠償性格が根本的に異る民事賠償と、「二重払いだ」といって調整することは、無法を法とするファシズムにつながっています。

このように、労災被災者の訴訟権を圧殺すれば、裁判で労働災害の責任を追及され、社会的に告発されるのが少なくなるので、企業は安全対策の手を抜くこととともに、被災した労働者に対し「お前の不注意によるケガで、皆んながめいわくする」、として労災かくし、労災切り捨ての攻撃が、さらに強化されることは火を見るより明らかです。

このような労災法改悪の動きに対し、全国の被災者団体や総評弁護団労災研究会が先頭に立って、「労災法改悪阻止」の行動が広がっているのです。

しかし今、二月の総評大会での特別決議が不発に終り、資本側の巻き返しも激しくなっています。悲惨な大災害を体験し、労働災害の根絶と、労災法の抜本的改正をめざして闘ってきた私たちにとって、この問題は重大な関心を持つとともに、改悪阻止のため、今こそ全国の仲間と連帯し、ただちに行動を起こす必要があります。

三井、海外で情報収集活動

最近、商社の情報収集・管理システムの強化がとくに目立ってきた（〝機関紙と宣伝〟による）。三井は昨年十二月「中東情報委員会」を設置したが、商社の国際的情報の収集力の強さは実証ずみとか。そこには経済目的より、政治目的さえ感じられる。要注意。

なかま

四山指導部

高田常男さん

▼…高田富男さん。五十三歳。昭和二十三年に四山鉱入社。以来勤続三十一年という、機械工のベテランです。

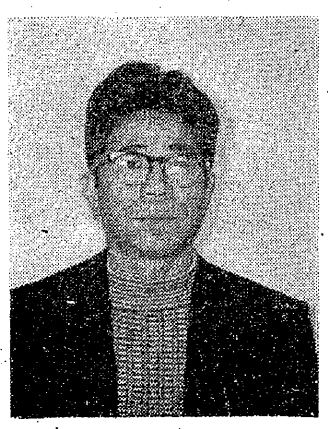
それが三井独占資本の差別配役により、いまではポンプ当番が毎日の仕事です。しかし資本の差別支配に負けず、職場では、分会長を分会三役としてささえ、また地域においても地域分会役員として、めだたない貴重な活動家です。そして、どこまでも地味なその活動ぶりが、組合員はもちろん新労組員仲間の信頼さえ勝ち取っているのです。

▼…趣味は、と聞けば「まア、まア」が返ってくる言葉ですが、実は、仲間のみんなが認めているウナギとりの名人です。三井独占資本の搾取の残骸である硬（ボタ）で、年ごとに海に向かって埋立地が広がっていきますが、その硬の下にかくれているウナギとり。まさに名人級です。

「後輩に対する注文」を聞けば、「反独占の思想をつらぬけ」。

×

四山指導部＝宮崎　勝・記



妻はチヨ子さん。子ども3人。大牟田市四山社宅164棟に、妻のチヨ子さん、次女のヨシ子さんと住む。